

一 府管下第一大区一小区一町一番地何某殿儀大日本帝國政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ確守シ年號一年一月一日ヨリ我  
 一 國立銀行株式ノ内一(五百廿五)圓即チ一株ノ持主タルヲ相違無キ証據トシテ此  
 株式券狀ニ當銀行ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附與スルモノ也  
 此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行ニ持參スヘシ銀行ニ於テ至當ノ檢査  
 ヲ遂ケ此券狀裏面ノ枠内ニ頭取支配人記名調印ノ上之ヲ差戻スヘシ  
 年號一年一月一日  
 一 國立銀行頭取

銀行  
之印

同 支配人  
姓名印

表		裏				
年	月	日	譲渡人記名調印	譲受人記名調印	取頭記名調印	支配人記名調印

第二十六條 若シ右株式券狀磨滅敗裂等ノ一アルキハ其趣ヲ書面ニ認メ之カ書替ヲ乞フヘシ若シ又燒亡紛失スルコトアレハ其事實ヲ明瞭ニ認メ二人以上ノ証人ヲ立テ各之ニ記名調印シ更ニ新株式券狀ノ受取方ヲ乞フヘシ  
 但シ株式券狀ヲ書替フル等ノキハ銀行ヨリ差圖スル所ノ手数料ヲ拂フヘシ  
 株式賣買ノ事  
 第二十七條 株式ヲ賣買スルニハ之カ証書ヲ製シ賣渡人買受人ノ双方相當ナル證人ノ眼前ニ於テ之ニ連印シ株式券狀ト共ニ之ヲ銀行ニ差出スヘシ而シテ取頭支配人ハ兼テ備置キタル株式賣買ノ簿冊ニ其頭末ヲ登記シ其株式券狀ノ裏面ニ記名調印シ併セテ右證書株式券狀ノ間ニ割印ヲ押捺シ再ヒ其株式券狀ヲ其人々ニ渡ス可シ但シ右ノ手數相濟ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定ムヘシ  
 第二十八條 右株式賣買證書ノ文例ハ左ノ如シ

國立銀行條例



株式賣買證書

一 國立銀行株式ノ内第一番(或ハ第一番ヨリ一番迄)一株式何某(茲ニ賣渡人ノ姓名ヲ掲ク)所持ノ分代金一圓ニテ今般何某(並ニ買受人ノ姓名ヲ掲ク)ハ買渡シ書面ノ金額受取渡シ相濟候處實正也然ル上ハ向後買受人ハ勿論其相續人後見人ニ於テモ之ヲ所持シ何某(賣渡人ノ姓名)所持中ト同様ノ規約ヲ遵守スヘシ仍テ證書如件

年號一 年一 月一 日

一 府管下第一大区一小区一町一番地	縣管下第一大区一小区一町一番地
賣渡人 姓名 名 印	買受人 姓名 名 印
一 府管下第一大区一小区一町一番地	縣管下第一大区一小区一町一番地
證人 姓名 名 印	

一 國立銀行

御中

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會以前日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサルヲ得ヘシ

シ

株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スル者アリテ其相續人若クハ後見人ノ右株式ヲ讓受クヘキモノハ銀行ノ要求セル然ルヘキ證據ヲ差出シタル上ニテ其銀行ノ株主トシテ株主牒ノ記載ニ入ルヲ得ヘシ

株式没入ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ルキハ頭取取締役等ハ條例第三十二條三十三條ニ準據シテ之ヲ處分ヲ爲スヘシ

總會ノ事

第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀ヲ受ケシヨリ以後三ヶ月以内ニ於テ其頭取取締役ノ取極メタル時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何レモ然ルヘキ日ニ於テ)頭取取締役ノ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分テ前條ニ掲載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總勘定ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ頭取支配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ頭末ヲ記載シタル書類ヲ稽查審按スル等ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處分スヘシ

國立銀行條例



第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當テハ其取極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ若シ(格段決議)付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ記載シ(少クトモ)日數七日以前ニ於テ之ヲ總株主ヘ通知スヘシ而シテ右ノ如ク手數ヲ爲セシ上ハ假令株主ノ内右報告書ヲ受承セサルモアルトモ此總會ノ手順ニ於テハ既ニ盡セシモノト爲スヘシ但シ銀行ヨリ株主ヘ報告スルノ書類ハ之ヲ直達スルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルハ都テ銀行ノ便宜ニ任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラヌモテ其所持ノ株數總株ノ五分一以上ニ及フモノヨリ之ヲ請求スルカニ於テハ何時コテモ臨時總會ヲ執行フコト得ヘシ

第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取取締役ヘ送達スヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役右請求ヲ承知セン日ヨリ日數七日ノ内ニ召集ノ手續ヲナサハルモ右請求人等自身ニ之ヲ召集スルカ又ハ其他ノ株主等ト相謀テ之ヲ召集スルヲ得ヘシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ズ株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之ニ出席スルニ非レハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第四十一條 右議長若シ會集スヘキ期限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セザリシトハ出席株主等ノ内ヨリ一人ヲ公選シ以テ議長ト爲スコト得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルコトハ(可否又ハ同意不同意ノ發言若シハ投票ニテモ)其說ノ多數ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ登錄シ併セテ其決議濟ミノ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ捺印シ以テ後日參觀証據ニ備ヘ置クヘシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニ若シ發言投票ノ數相半ハスルトキハ議長ノ助說若クハ決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各其所持セル株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一個宛ヲ増加シ百一株以上ハ十株毎トニ一個宛ヲ増加スルコト定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルコトヲ得ス又株式券狀ヲ借財ノ爲メ其銀行ヘ質入シタルモノハ總會ニ於テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癪其他ノ事故アルニ於テハ)代人何レモ勝手タルヘシ尤モ代人ハ其銀行ノ株主中ノ者ニ限り之ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ



差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サスシテ決議ノ後如何ナル異議アルトモ一切之ヲ申立ツルコトヲ得サルヘシ

第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年號一 年一月一日 一 國立銀行ノ定式(又ハ臨時)總會及ヒ其延會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件

年號一 年一月一日

一 國立銀行株主

姓名 印

一 國立銀行

御中

諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 何人

内

頭取 一人

副頭取

何人(若シ之アラハ)

支配人 何人

書記方 何人

出納方 何人

計算方 何人

簿記方 何人

但シ右ノ如ク制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ廢置兼攝シ若クハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘシ尤取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減少スヘカラヌ故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クルキハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フヘシ

第四十九條 國立銀行ノ取頭取締役タル者ハ其銀行營業ノ全体ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責メニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事務ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ撰舉シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘシ但シ副頭取ハ頭取欠席スルキ其事務ヲ代理スル迄ニシテ平日ハ取締役ト同様ノ職任タルヘシ

第五十一條 左ニ掲ケシ人々ハ取締役タルヲ得ス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所持セサル株主  
但シ資本金十萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行ナレハ三十株一株五十圓ノ銀行

國立銀行條例



ナレハ六十株又資本金十萬圓未滿五萬圓以上ニシテ一株五十圓ノ銀行ナレハ三十株一株二十五圓ノ銀行ナレハ六十株ノ割合タルヘシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分ノ二ハ本店設立ノ地方ニ於テ少クトモ一ケ年間住居セ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券狀三十箇又ハ六十箇(前第五十一條中第一項

第五十四條 頭取締役タリトモ株主一同ノ協議ニテ取極メタル給料旅費及ヒ賞與金

第五十五條 取締役ノ撰舉ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ投票ヲ以テ之ヲ撰舉スヘシ尤

第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰舉セラル、所ノ取締役ハ直チニ誓詞ニ通テ認メ其地方

例ハ左ノ如シ  
取締役ノ誓詞

一 縣管下第一 大區 一 小區 一 町 一 村ニ於テ創立シタル 一 國立銀行ノ取締役何某謹テ左

私儀ハ 一 縣 一 府 一 華土族 一 縣管下第一 大區 一 小區 一 村ニ居住イタスニ相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ忠實ニ取扱フヘキ事

私在職中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一ケ條タリトモ決シテ犯ス間敷又他人ヲシテ

犯サセ間敷事

國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資本金中ノ 六十株ハ自力ヲ以テ所持ス

右ノ株式券狀ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ當銀行へ預ケ置キ在職中ハ決シテ

引出ス間敷候事

地方官  
廳之印

地方長官姓名印



但シ此誓詞ハ取締役等共通タルヘシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ撰舉サレタル時ハ新任ノ印影ヲ添ヘ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ最初撰舉ノ時差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元役ヲ除クハ勿論タルヘシ

上任報告

當一月一日何某儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何某儀ハ支配人ニ命セラル其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

年號一年一月一日

一 國立銀行

銀行  
之印

元支配人 姓名 印  
元頭取 姓名 印  
新支配人 姓名 印  
新頭取 姓名 印

紙幣頭何某殿

用紙美濃紙堅七寸幅二寸

年號一年一月一日何某代リ

何役撰舉

一 縣府 華士族 平民

姓名

銀行  
之印

印鑑

小印

一年一月

宿所

第五十八條 頭取取締役ハ其職務ヲ舉クル爲メ少クモ每月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲

シ以テ其事務ノ評議處分スルコトヲ得ヘシ而シテ此集會ノ体裁方法ハ總會ノ手續ニ準據

シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一箇年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外

ハ奉職ノ年限中必ス勤仕スルモノト爲スヘシ

但シ頭取取締役ノ在職年限ハ本條掲ケル所ノ如シト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公

撰ヲ以テ重年上任スルヲ得ヘシ尤重年上任シタルトキハ第五十六條五十七條ニ準

據シ更ニ誓詞並ニ上任報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取締役ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤

支配人ハ銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株主ニ非ル者ニテモ須ラシ熟練ノ人ヲ撰



フヘシ且其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ル、ハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

社中申合規則ノ事

第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金分配ノ手續、諸役員ノ權限分課、給料旅費ノ定則及ヒ其廢退進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜掲載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤右申合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背戾セサルハ勿論タリト雖モ其社中ノ申合ニ止ルヲ以テ更ニ紙幣頭ヘ差出スニ及ハサルヘシ

利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ(株主ノ總會ヲ經テ)銀行ノ利益金ヲ株主銘々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主ヘ報知スヘシ

諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差圖スル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ

第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同ヘ明示スヘシ

諸願同屆等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願、同屆報告其他凡ソ諸官廳ヘ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ラス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖スル處ノ書式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣寮ヨリ拂下シヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行半季利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告

第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテニ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ但シ支店毎月報告ハ其本店ヲ經ルニ及ハス其支店ヨリ

國立銀行條例



直チニ紙幣頭へ差出スヘシ右ノ外紙幣頭ノ考按ニヨリ臨時實際ノ報告ヲ差出サシム  
ルコトアルヘシ尤右臨時報告ノ差出方ハ其時紙幣頭ヨリ命スヘシ  
右之通相定候事

明治九年八月一日

太 政 官

第十八節 橫濱正金銀行條例

明治二十年七月六日勅令 第二十九號

朕橫濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

橫濱正金銀行條例

第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金  
ニ止マルモノトス

第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店  
又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店  
出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約  
スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十  
箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但

株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 外國ノ爲替及荷爲替

第二 内國ノ爲替及荷爲替

第三 貸付

第四 諸預金及保證預

第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ

賣拂フコトヲ得

第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコト

アルヘシ

第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコ

トヲ許サス

第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引



受クルコトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當コシテ裁判上公賣コ付シタルトキ

第十二條 横濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當コ取リ又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若シハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當コ取リ又ハ引受クルハ此限ニ在テス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケントキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其實質ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 横濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 (本條明治二十二年勅令第十號ヲ以テ如左改正)

横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其満期ニ當リ復選セラル、者モ亦同シ

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於

テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ横濱正金銀行頭取ヲ兼テシメ又ハ横濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 横濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 每半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 横濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戻シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業



ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條

(本條明治二十二年勅令第十號ヲ以テ如左改正)

橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改撰ヲ命スルコトヲ得

第二十三條

(本條明治二十二年勅令第十號ヲ以テ如左改正)

大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セムヘシ

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但橫文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

前(刑)五百四十五

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

第十九節 質屋取締條例

明治十七年三月二十五日布告 第九號

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

別冊

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳(東京府ハノ免許ヲ受クヘシ)

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ捺印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ機記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癩者及雇人(雇主ノ家ニ在ル者ヨリ)質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

質屋取締條例



官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス  
前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品、代價及買主ノ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府）縣令ニ於テ便宜取設ク内務卿ニ届出ヘシ

第二十節 古物商取締條例  
明治十六年十二月二十八日布告第五十號  
古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鉄、潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

(罰)二百以上  
二百以下



袋物屋小間物屋監甲屋時計原飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若シハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニアラス官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ証明スル証人二名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓

(重) 一月以上三年以下  
(罰) 三十圓以上三百圓以下

以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スルコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若シハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テヌシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時ヲリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシノ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商



二百以上  
二百以下

ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ  
違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケ  
タル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀  
徵章番號編柄模樣  
損所ノ類ヲ云フ價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者コアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘  
五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ  
且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署  
ハ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三百圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

二百以上  
二百以下

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ  
處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セララルコトアル  
ヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止  
シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者コハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贖物ニ係ルモノハ營業者ニ依  
ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサ  
ルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例施行スルノ方法細則ハ警視廳監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設  
ヲ除クテ内務卿ニ届出ツヘシ

第二十一節 獸醫免許規則

明治十八年八月 第二十八號  
二十二日布告

獸醫免許規則別冊ノ通制定シ明治十九年七月一日ヨリ施行ス

別冊

獸醫免許規則

獸醫免許規則



第一條 獸醫ハ獸醫學術ノ試験ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス  
第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫ノ開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ  
第五條 獸醫ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試験ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ簡手數料金壹圓ヲ納ムヘシ  
第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニヨリ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ  
第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ簡手數料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十條 獸醫廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第十一條 獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ農商務卿其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ  
第十二條 前條ニヨリ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

第十四條 官許ヲ得ヌシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二節 檣燈舷燈製造罰則  
明治十四年五月二十八日布告 第三十四號

檣燈舷燈製造罰則  
明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及ヒ舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者コアラサレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

罰 五十圓以上  
五十圓以下

罰 二十圓以上  
十圓以下



第二十三節 船舶信號器製造規則

明治二十年六月第十二號  
二日遞信省令

船舶信號器製造規則

明治十八年八月第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭、信號焰管及ヒ轟彈ハ遞信省ノ許可ヲ受ケタルモノニアラサレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四節 船燈信號器製造販賣規則

明治十九年七月十九號  
廿三日遞信省令

船燈信號器製造販賣規則左ノ通定ス

(甲第四號布達ハ船燈製造及販賣規則ナリ)

船燈信號器製造販賣規則

第一條 船燈船燈、發火信號器星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ遞信省ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 發火信號器ノ許可ヲ受クヘシトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ携帶シテ遞信省ノ試験ヲ受クヘシ但試験入費ハ出願人ナシテ負擔セシム

第三條 遞信省ハ船燈、發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

第四條 免許製造ノ船燈、發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ

第五條 免許製造ノ船燈、發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニテナス

第六條 船燈、發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニ廣告シ且其製造所、販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

第七條 免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條 船燈、發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應ジ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ

第九條 遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製造器ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ

第十條 不合格ノ製造器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命ジ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 不合格ノ船燈、發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルトキハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條 第四條第五條ヲ犯スモノハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二十五節 漉入紙製造取締規則

漉入紙製造取締規則

(科) 五十錢以上  
一圓以下



明治二十年七月廿三日勅令 第二十六號

朕流入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

流入紙製造取締規則

(科) 兩紙

第一條 文字書紋ヲ流入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添へ管轄廳東京府ハニ届出ヘシ違フモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債証書大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似ノ文字書紋又ハ凸ニ文字書紋ヲ流入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

第二十六節 度量衡改定規則

明治九年二月十九日布告 第十七號

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

別紙

度量衡改定規則

第一條 三器改定ニ付キ各地方ニ三器製作所並ニ賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ秤座秤座ハ同日ヨリ發止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所へ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フル

トテ禁ス時宜ヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但シ尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枴ハ芋烏半等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枴ノ線鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致候儀不相成事

第五條 舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可差出事

但シ秤ノ錘皿又ハ枴ノ線鉄弦鉄等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照ラシテ處斷スヘキ事

(別紙種類表略ス)

舊度量衡取締條例明治八年八月五日 第三百三十五號

今般度量衡取締條例并檢査規則種類表等別紙ノ通相定候條便宜ノ場所見計ヒ製作所賣捌所ヲ設ケ從來ノ弊害ヲ除キ候儀厚ノ注意施行可致此旨相違候事

舊度量衡取締條例



但度量衡原器及ヒ檢印并器械配達檢査計算諸表等大藏省ヨリ配達候條同省ヨリ可  
受取且製作請負人申付候者ノ居所姓名等同所へ申立免許鑑札可受取尤右日限ハ各  
地方管廳東京ヲ距ル百里以内ハ此達書到着ノ日ヨリ三十日限リ百里以外二百里迄  
ハ同四十日限リ二百里以外三百里迄ハ同五十日限リ三百里以外ハ同六十日限リ可  
申出事

度量衡取締條例

第一條 度量衡ニ器權衡ハ秤秤天秤並分銅  
相屬シテ三器ノ一トス 向後製作之儀ハ各地方ニ於テ製作所毎器一ヶ  
所ツ、製作請負人毎器一人宛ト相定メ其管廳ニ於テ身元人物相當ノ者相撰ミ新ニ  
可申出事

右各管廳ニ於テ製作請負人申付候節其居所姓名等大藏省へ申立同省ヨリ製作免許  
鑑札請取可下渡事

但製作請負人休業イタシ代業ノ者申付候節ハ右下渡シ候鑑札大藏省へ相納メ更  
ニ同省ヨリ新鑑札請取可下渡事

第二條 従前ノ秤量改役座方ハ製作所ニ於テ出來ノ新器發賣ノ日限ヨリ廢止候事  
但従前ノ秤量改役座方ハ自今廢止スト雖モ第一條揭示ノ通り身元人物相當ニ候  
得ハ更ニ製作請負人ニ相撰ミ候儀不苦事

第三條 三器賣捌所ハ東京ハ各器五ヶ所或ハ六ヶ所宛西京ハ二ヶ所或ハ三ヶ所宛大

阪ハ三ヶ所或ハ四ヶ所宛其餘ハ各地方ニ於テ管轄地ノ廣狹ニ應シ土民ノ便利ヲ計  
リ適宜ノ場所見計ヒ箇數相定メ其管廳ニ於テ身元人物相當ノ者相撰ミ各器賣捌人  
新ニ可申付事

右各管廳ニ於テ賣捌人申付候節賣捌免許鑑札大藏省ヨリ可相渡ニ付同省ヨリ請取其  
管廳ノ印章相調シ本帳割印押切り下渡シ然ル上其者ノ居所姓名等直ニ同省へ可届出  
事

但賣捌人休業イタシ代業ノ者申付候節ハ右下渡候鑑札取上ケ更ニ新鑑札下渡シ其  
段大藏省へ可届出其節取上ケ候鑑札ハ同省へ返納可致事

第四條 各器製作所賣捌所共免許相成候ハ、何製作所何賣捌所ト大書イタシ標札相  
掲ケサスヘキ事

第五條 度量衡原器ノ儀ハ各原器ニタ通リツ、大藏省ヨリ各管廳へ配達候條一ト通  
リハ其管下製作請負人へ下渡シ向後各器製作ノ規範ト致サセ一ト通リハ其管廳ニ  
備置各器檢査ノ照準トイタスヘキ事

右度量衡原器ニ附屬ノ器械並各器ノ檢査印章及度量衡製作順序番號印等は亦大藏省  
ヨリ配達候事

第六條 度量衡取締條例並度量衡種類表ハ三器製造所心得ノ爲メ各器製作請負人へ  
一部ツ、下渡スヘキ事



第七條 賣捌所コオイテ新製ノ器發賣日限ノ儀ハ各製作所ニテ新製ノ器概テ出來ノ  
上一般ヘ布告コ可及ニ付右出來ノ期限ヲ豫定シ大藏省ヘ可届出事

第八條 各管廳ニ於テ其管下製作所ニテ出來ノ各器改メ方ハ別冊度量衡檢査規則ノ  
通り檢査ノ上一々新器發賣ノ日ヨリ日數三百日ト定メ各管廳ニ於テ其管下ヨリ舊器持

出サセ相改可申尤別冊度量衡檢査規則ノ通り檢査ノ上一々舊器檢査ノ印章打込ニ  
可下渡事  
但印章打込ケ所ハ原器ニ打込有之候ケ所ノ通りタルヘク尤舊器ハ舊章ニ重複セ

サル様可打込事

第九條 舊器改方ハ第八條ノ通りタル可シト雖モ各管廳ニ於テ改方通ク行届候様專  
ヲ注意スヘク就テハ管轄地ノ廣狹ニ應シ土民ノ便利ヲ計リ適宜ノ場所見計ヒ出張  
所ヲ設ケ官員分配イタシ候等ハ都テ其地ノ便宜ニ任スヘキ事

右舊器改方出張所ヲ設ケ候向ハ出張所ケ所取極メ候上大藏省ヘ届出ヘキ事

右出張所ケ所届出次第同省ニ於テ舊器檢査印章一ケ所ニ付一ト通りツ、尙又可相  
渡ニ付同省ヨリ請取各出張所ヘ配達スヘク尤出張所ニ於テ改方照準ノ原器ハ兼テ  
相渡有之候原器ニ準シ製作所ニテ出來ノ三器各管廳ニ於テ檢査ノ上印章打込每器  
各出張所ノ數ニ應シ一ト通りツ、配達イタスヘキ事

第十條 三器ノ税額及ヒ製作所賣捌所ノ利益ハ左之通タルヘキ事

三器製作ノ諸材料並一切ノ諸費ヲ出來品ノ高ニ割合之ヲ各品各所ノ原價ト  
立右原價ヘ二割四分ヲ添ヘ之ヲ賣捌所ノ通價ト定ム其二割四分ノ内

差引 一分 但二割四分ノ廿四分一

税金

差引 殘

製作所利益

二割三分

金一圓

原價

金二十四錢

二割四分増價

合金一圓二十四錢

賣捌所ノ通價

内

金一圓

原價

金一錢

税金

差引 殘

金廿三錢

製作所利益

右税金ハ檢査印章打込下渡シ候器物ニ課シ各器製作請負人ヨリ取立ヘク尤其計算等  
委曲ハ第十二條ニ參照可致事

舊度量衡取締條例



右利益製作賣捌兩所ノ割合ハ工作ト賣捌ノ多少ニ應シ申合ノ上適宜ニ取定メ候テ不  
苦尤原價并通價ノ儀ハ決テ右製限ニ超ヘ候儀相成テサル旨可申渡置事  
製作所賣捌所共私ニ通價ヲ高下イタシ賣買候儀不相成若シ犯ス者ハ律ニ照シ處分ス  
ヘキ事

但減價ハ製作所ヨリ爲書上且増減ノ都度々々届出サスヘキ事  
賣捌所ニテハ右通價ノ外製作所ヨリ道程ノ遠近ニ應シ運賃ヲ添ヘ其地ノ定價ヲ立候  
ハ不苦事

但各地ノ定價ハ賣捌所ニ於テ通價并運賃ノ割合書添ヘ其管廳ヘ届ケ置カスヘキ事  
第十一條 各地ノ賣捌所ハ何地ノ製作所ヨリ買卸シ候トモ隨意タルヘク且同業中互  
ノ取引ハ不苦ト雖モ自儘ニ枝店取次所等取設ケサセ候儀ハ不相成事

第十二條 本條明治十四年第五十  
六號達ヲ以テ如左改正  
度量衡稅額ハ第十條揭示ノ通ニ付各器檢査ノ都度檢査印章打込濟ノ員數並原價増  
價通價等ノ調書製作請負人ヨリ爲差出置キ左ノ區分ニ據リ税金取立ヘキ事  
一月ヨリ 分翌年七月十日限  
六月マテ 七月ヨリ  
十二月マテ 分翌年一月十日限

第十三條 製作所ニテ檢査印無之品賣出シ又ハ他人獲リニ製作イタシ候儀不相成若  
シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

但尺ハ尺杖等全ク一時假用ノ爲メ目盛リイタシ候類枲ハ芋烏芋等ヲヨリ候爲メ  
ノ箱ヲ製シ賣候類ハ例外タルヘキ事

第十四條 製作所ノ外尺秤ノ目盛直シ枲ノ線鎖打替及斗概ノ修復等他人自儘ニイタ  
シ候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

第十五條 賣捌所ニ於テ製作ハ一切禁制タリト雖モ權衡賣捌所ニテハ諸紐附替ノ儀  
差許候間右諸紐結ヒ方目印等兼テ製作所ヘ打合セ爲心得置ヘキ事  
但緒紐代手職料等ハ最寄同業中申合ノ上定價相立サセ其管廳ヘ書上ケ爲置ヘキ  
事

權衡製作所賣捌所ノ外他人自儘ニ諸紐附替候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ  
照シ處分スヘキ事

第十六條 製作所賣捌所ハ一般ノ工商ト同様ニテ別段威權ケ間敷振舞ハ一切相成ラ  
サル事

第十七條 製作所賣捌所共其管廳官員時々見廻リ諸帳面類點檢ノ上書上ケ原價ノ當  
否及製作高賣揚高等審査可致且米穀酒醬反物等ノ商家ヘモ時宜次第同様見廻リ用  
器ノ正否探偵イタスヘキ事製作所賣捌所共此條ニ觸レ不相當ノ儀有之候ハ、管廳  
ニ於テ其職業差止メ代人申付其段大藏省ヘ可届出且其犯狀ニ依リテハ律ニ照シ處  
分スヘキ事



第十八條 新製ノ器發賣ノ日ヨリ三器共賣捌所ノ外賣買ヲ禁ス自用ノ品舊新器檢査印章有之分賣拂ヒ度者ハ同所へ差出候ハ、相當ノ代價ヲ以テ買取ルヘキ事

但向後三器ハ平人賣買一切停止タリト雖モ秤錘皿并柵縁鏡弦鏡等取離シ古鐵トシテ賣買イタシ或ハ鑄潰シ候儀ハ不苦事

第十九條 舊器改メ三百日ヲ過キ檢査印章無之器商業賣買ノ際ニ相用候事不相成若シ犯ス者ハ律ニ照シ處分スヘキ事

第二十條 従前ノ柵座秤座及尺工ハ自今製作賣捌共一切停止タリト雖モ舊器檢査印章打込相成候分ハ新器發賣ノ日ヨリ百五十日ノ内ニ各器賣捌所ニ於テ相當ノ割引ヲ以テ爲買取ヘキ事

右舊器檢査印章打込相成候分賣捌所ニ於テ買取方ハ各管廳ニ於テ兼テ賣捌人へ申諭シ各器買取方目途相立割引ヲ以テ買取候上賣出シ候儀可爲致事

但舊器買取員數ハ舊器買取日數百五十日ノ後取調出來次第各管廳ニ於テ賣捌人ヨリ爲書出大藏省へ差出スヘキ事

第廿一條 舊器賣買ノ儀ハ第十八條第二十條揭載ノ通りニ候得共舊器賣買ニ付テハ收税ニ不及事

第廿二條 此條例中一般ノ人民ニ係リシ儀ハ各地ノ區戸長へモ篤ト爲相心得取締筋ニ付萬一違犯ノ者有之節ハ速ニ其管廳へ訴出候儀兼テ可申付置事

(度量衡檢査規則零之)

第二十七節 牛馬賣買免許規則

明治五年十一月四日布告 第三百三十號

諸 府 縣 省

牛馬賣買渡世之者免許税ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

別紙

牛馬賣買渡世ノ者免許税ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

大 藏 省

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ルヘシ其餘准之可申事

牛馬賣買免許規則

四百二十一



第二條

(本條明治七年第四十五號布告ヲ以テ如左改正)

免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ヶ年税金壹圓上納可致事

(明治八年第四百十五號布告ヲ以テ但書如左改正)

但シ右税金ハ、毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立租稅寮へ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致事

第五條 免許鑑札燒印並ニ押切判ハ雛形ノ通り其管轄所ニテ製造致各稼人共へ相渡可申事

但シ鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添へ當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者相顯ル、ニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルコ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二倍美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行候コ付諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

第九條 (本條明治七年第三百三十一號布告ヲ以テ追加)

免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右之通規則相定候事

(鑑札雛形畧ス)

第二十八節 石油取締規則

明治十六年二月第六號月十五日布告

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

但施行日限ノ儀ハ明治十五年八月第四十四號布告ノ通タルヘシ

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサルハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ藥用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

石油取締規則



第三條 石油營業者ヲ分テ壙業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳東京府下ノ許可ヲ受クヘシ但ニ類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ

石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但壙業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油並ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限り販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必用ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

明治十六年三月十日

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
明治十六年三月十日  
月十六日布告 第十號

明治十五年八月第四十四號及本年二月第六號布告石油取締規則施行日限ノ儀ハ追テ布告候マテ延期ス

第二十九節 蠶種検査規則

明治十九年八月十日  
七日農商務省令 第九號

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲蠶種検査規則左ノ通相定メ原種ノ検査ハ明治二十年検査期ヨリ施行シ製絲用種ノ検査ハ同二十一年検査期ヨリ施行ス

蠶種検査規則

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其検査ヲ受クヘシ

第三條 検査證印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第四條 蠶種検査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ

但地方ノ狀況ニ由リ巡廻検査ヲナスモ妨ケナシ

第五條 蠶種検査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ

但検査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

蠶種検査規則



第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ検査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツヘシ

第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種販賣用種ノ製造ニ用フルモノト製絲用種トニ區別シテ検査所ニ差出スヘシ

第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ検査證印ヲ付シ其以上ニ及ブモノニハ都テ廢棄證印ヲ付スルモノトス

第十條 發藥證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢棄スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルトキハ第一條ニ據ルヘシ

第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

(科) 罰金

明治廿一年三月二十九日農商務省令 第二號

明治十九年省令第九號蠶種検査規則中春蠶ノ製絲用種夏蠶秋蠶夏期及秋期ニ飼育スルモノノ原種及製絲用種ノ検査ハ當分其施行ヲ延期ス

但施行ノ期ハ退テ之ヲ告示スヘシ

第三十節 茶業組合規則

明治廿一年十二月廿九日農商務省令 第四號

茶業組合規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但十七年三月第四號連茶業組合準則ハ廢止ス

茶業組合規則

第一章 總則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ク之ニ加入スヘシ

但自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨ケナシ

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區内ニ於テ茶業者小數ナルトキハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トヲ區別シテ組合ヲ設クルノ必要アルト

茶業組合規則



キハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 組合ノ名稱ハ何<sup>府</sup>何<sup>郡</sup>茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ

(明治廿三年農商務省令第三號ヲ以テ設ケ  
ノ下東京トアリシテ全國假立ノ地ト改ム)ニ中央會議所ヲ設クヘシ

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

(明治廿三年農商務省令第一號  
ヲ以テ本條ニ左ノ但書ヲ加フ)

但二府縣以上ノ組合員全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設クルノ必要アルトキハ其規約ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

### 第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 (明治廿三年農商務省令第一號ヲ以テ  
本條中括弧内ノ十九字ヲ追加ス)

組合員ハ組合及會議所ノ規約「並ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約」ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

### 第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但選任及ヒ改選ノ都度聯合會議所ヲ經テ地方廳ニ届出ツヘシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條 (本條明治廿二年農商務省  
令第五號ヲ以テ削除ス)

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ



第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ受扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員中ヨリ之ヲ選定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ選舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第四章 會議

第二十四條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

第二十五條 聯合會議ニ於テハ會議所々在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十六條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議々員之ヲ選定スヘシ

第二十七條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第二十九條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ

地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第三十條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 會議ハ議員半數以上出席セザレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ涉ルキハ半數以內ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第三十二條 議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十三條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

- 一 組合ノ位置
- 一 組合員ノ證票
- 一 粗惡不正茶取扱ノ方法
- 一 役員選舉ノ方法
- 一 組合入退者取扱ノ方法
- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徵収支出ノ方法



- 一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件
- 第三十四條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
  - 一 聯合會議所ノ位置
  - 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
  - 一 製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
  - 一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スル方法
  - 一 聯合會議々員及ヒ事務員撰擧ノ方法
  - 一 聯合會議ニ關スル規程
  - 一 違約者處分ノ方法
  - 一 經費賦課徴収支出ノ方法
  - 一 其他地方ノ情况ニ依リ必要ナル條件
- 第三十五條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
  - 一 中央會議所ノ位置
  - 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
  - 一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
  - 一 中央會議々員及ヒ事務員撰擧ノ方法
  - 一 會議ニ關スル規程

一 經費賦課徴収支出ノ方法

一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章 罰則

第三十六條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違反シタル者ハ金二圓以上金二十

五圓以下ノ罰金ニ處ス

明治廿二年七月十日 第八日農商務省令 第七號

一 府縣管内製茶産額僅少ニシテ明治二十年<sup>十二</sup>省令第四號茶業組合規則ヲ施行シ難キ  
 狀況アリト認メタルトキハ其府縣ニ限リ該規則ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ此場合  
 ニ於テハ別ニ告示ヲ以テ其府縣ヲ指定ス  
 但組合ノ設ケナキ府縣ノ茶業者組合ノ設ケアル府縣ニ於テ茶ヲ製造シ又ハ販賣スル  
 トキハ其府縣ノ組合規約ヲ遵守スヘキモノトス

第三十一節 北海道水産取獲規則 (明治十八年第三號布告ヲ以テ本  
 則中括弧内ノ十三字ヲ追加ス)

明治十七年五月二日布告 第十二號

北海道ニ於テ納税スヘキ水産物ヲ取獲シ又ハ水産物ヲ有税品ニ製造セントスルモノ  
 ハ其地ノ管廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ違フモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其  
 物品ヲ沒収ス之ヲ賣別キタルモノハ其代價ヲ追徴ス

明治十七年五月二十三日布告 第十六號

北海道水産取獲規則



臘虎並臘豚獸獲禁罰則

自今北海道ニ於テ臘虎並臘豚獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒収ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第卅二節 特別輸出港規則

明治二十二年七月三十日法律第二十號

朕特別輸出港規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特別輸出港規則

第一條 帝國臣民米、麥、麥粉、石炭、硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

- 一 伊勢國四日市
- 一 長門國下ノ關
- 一 筑前國博多
- 一 豊前國門司
- 一 肥前國口ノ津
- 一 肥前國唐津
- 一 肥後國三角
- 一 越中國伏木
- 一 後志國小樽

第二條 前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ントスルトキハ大藏大臣へ出願シ外國船雇入免狀ヲ受クヘシ

(罰) 五百以上  
千以下

第三條 特別輸出港ニ於テ船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 第一條ノ輸出事業ニ使用スル船舶ハ其使用中沿海貿易ヲ爲スコトヲ得ス犯ス者ハ五百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ雇入外國船ニ在テハ尙ホ第二條ノ免狀ヲ取上クヘシ

第五條 本規則ヲ廢止シ又ハ改正スルトキハ六箇月前ニ公布スヘシ

第六條 本規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 特別輸出諸港ニ於テ本規則施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十二年八月八日勅令第四百四號

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年八月十五日ヨリ該規則ヲ施行ス

- 一 長門國下ノ關
- 一 筑前國博多
- 一 肥前國口ノ津
- 一 後志國小樽

明治二十二年十月三十日勅令第四百十四號

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年十一月十五日ヨリ該規則ヲ施行ス

特別輸出港規則



ヨリ該規則ヲ施行ス

- 一 伊勢國四日市
- 一 豊前國門司
- 一 肥前國唐津
- 一 肥後國三角
- 一 越中國伏木

第卅三節 特別輸出港規則施行細則

明治二十二年八月第十號  
月一日大藏省令第十號

本年七月 法律第二十號特別輸出港規則施行細則左ノ通相定ム

特別輸出港規則施行細則

第一條 特別輸出港規則第二條ノ外國船雇入願書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 國名 一 船形 一 船名
  - 一 噸數 一 輸出品名 一 輸出地名
  - 一 仕向先外地名 一 船長ノ姓名 一 雇入期限
- 第二條 外國船雇入免狀ノ期限ハ六箇月以内トス
- 第三條 外國船雇入免狀ノ期限經過シタル後之ヲ繼續セント欲スル者ハ特別輸出港規則第二條ニ據リ更ニ免狀ヲ受クヘシ

第四條 船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ特別輸出港所在ノ稅關出張所ニ於テ之ヲ管理ス

第三十四節 東京府區内清酒輸入規則

明治二十一年十一月十八號  
二月十九日勅令第八十八號

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京府區内清酒輸入規則

- 第一條 東京府區内ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受クヘシ
- 第二條 免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區内ニ清酒ヲ輸入スルコトヲ得ス
- 第三條 免許ヲ受ケヌシテ清酒ヲ輸入シタルトキハ其清酒及容器ヲ沒收シ既ニ之ヲ費消シ又ハ賣捌タルモノハ其代金ヲ追徴ス
- 第四條 清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第三條第四項ノ税金ヲ逋脱シタルトキハ其税金ニ相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第五條 此規則ニ依テ沒收シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモノトス
- 第六條 清酒ヲ再輸出スルトキハ其特別稅下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ
- 第七條 東京府知事ハ此規則實行ノ責ニ任ス



第八條 此規則ハ明治廿二年一月一日ヨリ施行ス

第三十五節 蹄鐵工免許規則

明治三十三年四月三日法律第三十一號

朕蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

蹄鐵工免許規則

第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應ジ蹄鐵ヲ裝シ又ハ鐵ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 蹄鐵工免狀ヲ受ケルコトヲ得ル者左ノ如シ

一 蹄鐵工免許試験ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者

官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第

證書又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出

願スヘシ

第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登録シ之ヲ公告

スヘシ

第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三

十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ

地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受ケル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ

處ス

第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 蹄鐵工免許試験規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農

蹄鐵工免許規則

(罰)二百以上

(科)二百以下



商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄  
鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條 此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼テント欲スル者ハ

第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受ケル者ハ第

六條ノ手数料ヲ要セス

第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第八章 徵稅ニ關スル罰則

第一節 地租條例

明治十七年三月十五日布告第七號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關  
スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

別冊

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

(明治二十二年法律第三十號  
ヲ以テ本條但書ヲ如左改正)

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 (本項全上法律ヲ以テ如左改正)

池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹

リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用

ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ步ト爲シ三十步ヲ畝ト

爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一

ヲ合ト爲シ合ノ十分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

地租條例



地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應ジ之ヲ定ム

第十條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受グヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但買入ノ土地ハ其實取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 (本條第一項全上法律ヲ以テ如左改正)

有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

第十四條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ  
前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス  
十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出鐵下年期ノ許可ヲ受シヘシ鐵下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス  
官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス



官有ノ地面ヲ墾立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 (本條全上法律ヲ以テ削除)

第十八條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

鐵下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海、湖、ニ歸スルモノトス

第二十五條 (本條但書全上法律ヲ以テ如左改正)

土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス

第二十六條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 (本條全上法律ヲ以テ如左改正)

前 第三十四條

前 第四十四條



(科) 二四九十五

第十條 第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス

第二節 地租條例施行細則

明治二十二年十二月十九號  
月廿九日大藏省令

地租條例施行細則左ノ通定ム

地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル  
鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ

一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ十分一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨ツ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用ユ

市街宅地ノ丈量ハ厘未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若シハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルコトヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈地ス

第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス

地租條例施行細則



畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入ス

崖高ノ地其崖脚中ノ畝入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス

田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス

第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ又實地ノ情况ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願届書ニ記入スルモノトス

前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ檢査ノ上之ヲ定ム

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ府縣知事ニ於テ豫メ管内ヲ五區域ト爲シ毎年其一區域ヲ檢査シ五箇年ヲ以テ全管ヲ檢了ス可シ但地價ハ檢査ノ當年ニ於テ修正ス

第十條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ著手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス

第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項届書ニ開墾著手ノ年月ヲ記載ス可シ

第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十四條 條例第二十六條第二十七條ノ追徴租額ハ犯罪發覺ノ日即チ其月分ヨリ計算ス

第十五條 條例中地方廳ニ差出ス可キ願届書式ハ府縣知事之ヲ定ム

第三節 船稅規則

明治十六年四月十三號

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

別冊

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

船稅規則



第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願  
出検査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地  
方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年 金十五圓

同 風帆船 同 金十圓

日本形船積石五十石以上百石ニ付 金二圓

同 積石五十石未満 自船梁 三間迄ハ一年金三十錢

解漁船小廻船 積石ニ 長 至船梁 三間迄ハ一年金三十錢

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金十五錢ヲ増加ス

遊船 長 自船梁 三間迄ハ一年金五十錢

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金二十五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若シハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五十石未満ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳

ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變  
換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲ケル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「ハツテラ」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分テ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス  
其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ  
上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受ケル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間







第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税候儀ト可相心得事

第四則

一右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分宛區戸長へ取集メ其管轄廳へ可相納事  
但前半年分ハ其年七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

第五則

一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免税タルヘキ事

第六則

一諸車類無届コテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脱税高ノ五倍科料タルヘキ事  
(明治二十一年二月勅令第七號ヲ以テ左ノ附則ヲ追加シ二十一年七月一日ヨリ施行ス)

附則

北海道應管内ニ限り第一則ニ掲グル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七六八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

第五節 所得税法

明治二十年三月五日勅令第五號

朕所得税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得税法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此税法ニ依テ所得税ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戸屬ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得ス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應ジ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲グルモノハ所得税ヲ課セズ

所得税法

(科) 脱税高  
五倍



第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受ケル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級 稅率

第一等 所得金高三万円以上 百分ノ三

第二等 所得金高二万円以上 百分ノ二半

第三等 所得金高一万円以上 百分ノ二

第四等 所得金高千圓以上 百分ノ一半

第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

調査委員及補缺員ニ撰ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ撰舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ撰舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ

被選人タルコトヲ得ス全條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ撰舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村撰舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ

多カラサル撰舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村撰舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ撰舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其届書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以



テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金額高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件

ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金額十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金額一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セズ

第二十四條 所得金額ヲ隱蔽シテ通稅シタル者ハ其通稅金額三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用セズ

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス但北海道海神繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給手當、年金、及思給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セズ

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日マテニ差出スヘシ

第六節 所得稅法施行細則

所得稅法施行細則

(罰) 脫稅高  
三倍

(罰) 三十圓以上  
三十圓以下

(科) 一圓九十五  
錢以下



所得稅法施行細則左ノ通相定ム

所得稅法施行細則

第一條 戶主ニ所得ヲシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅スヘキモノトス

第二條 稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價額ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 稅法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此稅法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此稅法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所々轄内ニ轉居セントスルトキ及ヒ轉居シタルキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員撰擧ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員撰擧ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辞スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指



揮ニ從ヒ所得稅調查ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則 (明治二十年大藏省令第  
十三號ヲ以テ如左改正)

本年五月省令第八號所得稅法施行細則附則左ノ通改正ス

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

(書式零之)

第七節 菓子稅則

明治十八年五月八日布告 第十一號

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セズ

別紙

菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ  
菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ  
菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢  
仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢  
出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

菓子稅則



第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借買賣又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 (明治二十一年勅令第八號) ヲ以テ本條中左如改正

菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼スル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金二十圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金十五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金十圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓

雇人一人アル者 一箇年 金三圓

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

御賣營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金二十圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金十五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金十圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓

雇人一人アル者 一箇年 金三圓

雇人ナキ者 一箇年 金一圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓

雇人二人アル者 一箇年 金三圓

雇人一人アル者 一箇年 金二圓

雇人ナキ者 一箇年 金一圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受ルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分 其年八月三十一日限

菓子稅則



第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三十圓未満ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス  
第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日  
限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出  
ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又  
ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 (本條明治二十一年勅令  
第八號ヲ以テ如左改正)

菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコト  
アルヘシ

第十六條 (本條明治二十一年勅令  
合第八號ヲ以テ削除)

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケヌシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十  
圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代  
金ヲ追徵ス

罰 五十圓以上  
五十圓以下  
全 沒收

第十八條 (本條中明治廿一年勅令  
第八號ヲ以テ如左改正)

第十二條第十三條ノ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五  
圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

罰 五十圓以上  
五十圓以下

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セヌシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ  
違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 (明治二十一年勅令第八號ヲ以テ本條意リタル者ノ下「及」  
ハ第十四條ノ根拠ニ記載セザル者ノ十八字ヲ削除)

第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ  
科料ニ處ス

罰 一圓以上  
九十五錢以下

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ  
用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家屬雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營  
業者ヲ處罰ス

第八節 醬油稅則

明治二十一年六月十六日勅令 第四十七號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條 醬油溜ヲ併稱ス製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許

醬油稅則



鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ  
營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 〔醬油ニ諸味一石ニ付 金一圓〕  
〔溜ハ製成 一石ニ付 金一圓〕

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數

ノ査定ヲ受クヘシ  
造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借買賣及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムテ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカテサル事故ニ



因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ検査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀

若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税

關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依

ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關

ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ハ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト

雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

第十五條 醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十七條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スルコトヲ得ス

第十八條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業

ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘ

第十九條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所

ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五十圓以上五十圓以下

ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十一條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰

金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第二十二條 第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ全シ

第二十三條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シ

タル者及連稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處

シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十四條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ検査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル

者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルト

キハ其代金ヲ追徵ス

第二十六條 此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 醬油製造人ノ家屬雇人コシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ

其後見人ヲ處罰ス

- (罰) 罰金 五十圓以上 五十圓以下
- (全) 醬油容 器製造器 械沒收
- (罰) 三十圓以上 三十圓以下
- (全) 醬油容 器製造器 械沒收
- (罰) 三十圓以上 三十圓以下
- (全) 醬油容 器製造器 械沒收
- (罰) 三十圓以上 三十圓以下
- (全) 醬油容 器製造器 械沒收
- (罰) 三十圓以上 三十圓以下
- (全) 醬油容 器製造器 械沒收



第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム  
第二十七條 此稅則ハ明治三十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス  
但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ  
第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニテ第一條但書ニ該當ス  
ル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第九節 醬油稅則施行細則

明治二十一年八月三日大藏省令第九號

本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ  
棟數ニ拘ハラヌ都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數  
ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬  
油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲  
スコトヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願

出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管

租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキ  
ハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ  
所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ  
新シニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セ  
シムヘシ

第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先ヲ帳簿ニ記載シ  
置クヘシ

第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受  
クヘシ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑 口頭ヨリ三寸胴徑ノ底徑ノ底板面ヲ執レモ内測ニテ縱橫 $\oplus$ 圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和

醬油稅則施行細則



シニヲ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等就レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈  
量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス  
但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス  
胴徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス  
口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乗シ丙トス  
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位チ一位トス  
ヲ乗シニヲ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得  
容器中種類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實  
ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條 石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定ス  
ヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス此徑徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス  
ノ深サヲ乘シニ倍シ全深ニテ除シ之  
ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス  
假定ノ底徑ト口徑トヲ相乗シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位チ一位トス以下準之  
乘シ其得ル石數ヲ容器帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シニ倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス  
假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ甲トス  
假定ノ口徑ト底徑トヲ相乗シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條 改名代替リ若シハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左  
ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 代替書替ハ 六十日間

一 其他ノ書替再渡ハ 十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ  
受ケ二十日以内ノヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ  
至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等ヲ詳記シ

醬油稅則施行細則



所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油製製造帳

醬油仕込帳

醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲ケル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名稱石數箇數輸入地名積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受ケヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一

石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケヘシ

第二十二條 稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帖簿帳記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス  
(舊醬油稅則明治十八年五月八日第十號布告)  
但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

別紙

醬油稅則

第一條 醬油溜リチ併稱スヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケヘシ

舊醬油稅則

二百四十五  
二百四十六  
二百四十七  
二百四十八  
二百四十九  
二百五十



第二條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ稅石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 製造高一石ニ付 金一圓

第三條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條 醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ

第五條 免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ツ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受ケルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第七條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

第二期 九月三十日限

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條 醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第九條 廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ届出檢査ヲ受ケ其石數ニ就キ納稅スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上ニ於テ製造スル者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨届出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第十條 檢査未濟ノ醬油ト檢査既濟ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以内ニ其旨管廳ニ届出更ニ總石數ヲ以テ檢査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條 檢査既濟ノ醬油其造石稅納期内ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢棄ニ属シ若クハ腐敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他ノ証憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出シ其造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油仕込帳

醬油賣上帳

舊醬油稅則



第十四條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十五條 醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ届出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ之ヲ届出ヘシ但見込石數ノ増減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々届出ヘシ

第十七條 醬油製造ニ属スル倉庫納屋並ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第十八條 醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條 醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條 醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年一斗五升ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ属スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十三條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ証票ヲ携帯スヘシ

第二十四條 第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第二十五條 第二條ニ違ヒ卸賣人小買人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十六條 醬油ヲ隱蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラズ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス但検査既済ノ醬油ト検査未済ノ醬油トヲ混和シテ隱蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ス

第二十七條 第八條第九條第十條ノ検査ヲ受ケスシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徵ス

第二十八條 第十八條ニ違ヒ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス



第二十八條 第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓受讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ調製セズ若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ檢査ヲ受ケズシテ容器ヲ使用シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條 醬油製造人ノ家族雇人ヨシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第十節 煙草規則

明治二十一年四月六日勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草規則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷紙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此規則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス  
證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上 五百圓以下

煙草製造人此規則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ  
煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

煙草稅則



煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各々ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若シハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻

ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス



第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

(罰) 通稅高  
三倍  
煙草及  
器械ヲ  
沒收

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ通稅ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

(罰) 五百以上  
五十以下

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五百圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

(罰) 十圓以上  
十圓以下

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅ヲタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

(罰) 二百以上  
二十以下

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ忘リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草

(罰) 三百以上  
三十以下

仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

(罰) 二百以上  
二十以下

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

(科) 二百以上  
九十以下

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者コハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ハ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅

煙草稅則



則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌キ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

第十一節 煙草稅則施行細則

明治二十一年四月廿六日大藏省令 第三號

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異

動キ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ニ認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 (明治二十一年大藏省令第十號ヲ以テ本條ニ内ノ六字ヲ追加ス)

煙草製造又ハ煙草仲買營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所ニテ其府縣ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但異動キ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ)

第四條 稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲グル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス  
一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人

煙草稅則施行細則



ノ氏名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ  
第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黄色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黄色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	一錢二厘
淡紅色	一枚	一錢六厘
桔梗色	一枚	一錢八厘
橙黄色	一枚	二錢
老綠色	一枚	二錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢二厘

黃綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付	百匁入
	八十匁入
	六十匁入
	五十匁入
	四十匁入
	三十匁入
	二十匁入
	十五匁入
	十匁入
	五匁入



卷煙草每一包(函)ニ付

- 二百本入
- 百本入
- 五十本入
- 二十本入
- 十本入
- 六本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り、又ハ紙包入り、トシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セサレハ煙草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造煙草每箇ノ量目、定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造煙草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ四拾五入ノ例ニ依リ二厘印紙ヲ貼用スルキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若シハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ得

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵、壹「カマス」又ハ壹束毎ニ其業ノ種類、量目、及ヒ預入レタル番號、年月日、預ケ主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取り葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、數箇、量目、荷數、荷送主ノ氏名、住所
- 一 製造煙草ノ種類、裏包ノ區別、箇數、荷受主ノ氏名、住所



第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎コ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

- 一 印紙賣渡ノ年月日
- 一 印紙ノ種類枚數
- 一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ又同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

- 一 代替書換ハ六十日間
- 一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲ケル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械コハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

(罰) 二百以上  
二十四以下  
(科) 兩以上  
兩以下

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及ヒ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

(舊煙草稅則明治十五年十二月廿七日第六十三號布告)

明治八年十月第十百五十號布告煙草稅則別紙ノ通改定ニ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年二月第十四號布告第一項ハ廢止ス

別紙

煙草稅則

第一章

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

舊煙草稅則



烟草製造人

烟草仲買人

烟草小賣人

第二條 刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラズ

第三條 未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ハ賣渡シ及製造烟草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ハ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス

第四條 製造烟草ヲ自用者ハ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章 營業鑑札  
第五條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出營業鑑札ヲ受ケ可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ケ可シ

第六條 烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ

第七條 烟草營業者ハ鑑札ヲ受ケルトキハ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ  
烟草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢  
烟草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢  
烟草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳ニ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條 鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 營業稅  
第十一條 烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ  
烟草製造營業稅 一個年 金十五圓  
烟草仲買營業稅 一個年 金十五圓  
烟草小賣營業稅 一個年 金五圓

第十二條 烟草營業稅ハ年々同度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章 印稅  
第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ明治十六年第四十一號布  
量目 印稅 卸賣定價百々ニ付 全卸賣定價百々ニ付二十五錢以上五十錢未満ノ分  
全卸賣定價百々ニ付二十五錢以上五十錢未満ノ分

舊烟草稅則



五匁	二厘	三厘	四厘
十匁	四厘	六厘	八厘
十五匁	六厘	九厘	一錢二厘
二十匁	八厘	一錢二厘	一錢六厘
三十匁	一錢二厘	一錢八厘	二錢四厘
四十匁	一錢六厘	二錢四厘	三錢二厘
五十匁	二錢	三錢	四錢
八十匁	三錢二厘	四錢八厘	六錢四厘
百匁	四錢	六錢	八錢

第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第十五條 刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第十六條 刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條 外國へ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節税關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人へ下付ス可シ

第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ (明治十六年第四十一號布告ヲ以テ「内」ノ文字追加)

帶印紙 紙黑色	一枚	二厘
淡赭色	全	三厘
黃色	全	四厘
赭色	全	六厘
萌黃色	全	八厘
淡青色	全	九厘
茶褐色	全	一錢二厘
淡紅色	全	一錢六厘
桔梗色	全	一錢八厘
橙黃色	全	二錢
老綠色	全	二錢四厘
濃青色	全	三錢
淡黑色	全	三錢二厘
黃綠色	全	四錢
嬌栗色	全	四錢八厘
紫色	全	六錢



「全・朱色 全 六錢四厘」

全 赤色 全 八錢

第十九條 烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻烟草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條 烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條 烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

烟草製造人

烟草製造帳

烟草仲買人

烟草買入帳 烟草賣渡帳

烟草小賣人

烟草買入帳

第二十四條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條 烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條 烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草買入高賣捌高製造高並印紙買入高及六月三十日ノ烟草並印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高並買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條 烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戶外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章 檢査

舊烟草稅則



第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ検査ス可シ  
第三十三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケヌシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅連脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同シ其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ若シハ脱稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同シ其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得ヌシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其



營業者之處罰ス

第十二節 酒造稅則

明治十三年九月第四十號  
月廿七日布告

今般酒造稅則別冊ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止  
候條此旨布告候事

別冊

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ  
免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造  
シタルモノヲ云フ

二類 (明治十五年第十七號布告ヲ以テ  
本項中括弧内ノ六字ヲ加フ)  
蒸留酒 燒酎酒類再溜酒類其他  
蒸留シタルモノヲ云フ

三類 再製酒 餘酒味淋白酒等釀造蒸留ノ酒類ヲ調和シ  
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 (本條明治十五年第六十一號布告  
號布告ヲ以テ如左改正)  
免許受ラケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金四圓

二類一石ニ付 金五圓

三類一石ニ付 金六圓

第四條 (明治十五年第六十一號布告  
ヲ以テ本條ニ二三項ヲ追加)

免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ稅石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セズ

清酒 百石

濁酒 十石

一類 清酒濁酒 二類三類 五十石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 (本條明治十五年第六十一號  
號布告ヲ以テ如左改正)

酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

酒造稅則



第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 (本條中第一期第二期検査濟ノ時日ハ明治十五年第十七號布告ヲ以テ改正又第三期納納ハ明治十九年勅令第七十九號ヲ以テ如左改正)

造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

第二期 十月一日ヨリ二月中検査濟石數ニ係ル税額ノ半數

七月三十一日限

第三期 三月一日ヨリ六月中検査濟石數ニ係ル税額ノ半數

十月三十一日限

七月一日ヨリ皆造検査濟石數ニ係ル税額並前税額ノ殘數

第十條 (明治十五年第六十一號布告ヲ以テ本條中第二期ヲ追加ス)

造酒ノ石數ハ總テ管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税ス

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙

存セル酒造場ニ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ニ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受

ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未濟ノ酒類ニ検査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税

ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未濟ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ノ酒ニ變製スル時ハ類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類

造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査濟ノ石數ニ係ル造石税ヲ

納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ニ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ

検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ニ申出検査ヲ受ク

ヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製

成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ



免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキコ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒も  
ト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 (本條明治十六年第二十六號布告ヲ以テ如左改正)

酒造用諸器械ハ使用以前管廳ニ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ニ届出  
ツ可シ

造酒着手役後石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得シテ諸器械ヲ酒造場外ニ移ス  
コトヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主ニ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ檢  
査費ニ係ル造石税ヲ完納ス可シ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 (明治十五年第十七號布告ヲ以テ本條ニ但書追加)

酢及ヒ酒もト販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニアラ  
ス

第二十二條 (本條明治十五年第六十一號布告ヲ以テ如左改正)

他ノ依託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲

メ製造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條 (本條明治十五年第六十一號布告ヲ以テ如左改正)

検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若シハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

検査既済ノ酒類ニ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒用諸器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出  
開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ニ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造リ方法  
共届出ヘシ

但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ニ届出ヘシ

但増減ハ此時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載  
シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケヌシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ

前) 酒類器  
械沒收

酒造稅則







施行ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ糖油等ニ混和シテ製造セント欲スル者ハ其旨管廳へ届出  
免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢納シムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲グル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受卸賣營業者

一 飲食店又ハ旅館營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルヲ得  
ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之  
ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

罰 三十圓以上

罰 二十圓以下

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三十圓以上三十圓以下  
ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下  
ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未  
タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八ヲ適用ス

第十四節 北海道ノ内酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ於ケル酒造稅則

明治三十二年九月  
月二十八日法律 第二十四號

朕北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム

北海道ノ内明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ  
本則ヲ施行ス但其稅率ハ當分左ノ通定ム

酒造免許稅 金二十圓

酒造場一箇所ニ付 金二十圓

酒類造石稅 一類一石ニ付 金二圓

二類一石ニ付 金三圓

北海道ノ内酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ於ケル酒造稅則同施行細則五百十三



三類一石ニ付 金四圓

稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十五節 北海道ノ内酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ於ケル酒造稅則施行細則

明治二十二年十月  
二十五日大藏省令第十四號

本年九月法律第二十四號酒造稅則施行細則左ノ通定ム

酒造稅則施行細則

第一條 酒造營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハヌ都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ願出ヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ檢査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルコト止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第二條 引續酒造營業ヲ爲サントスル者ハ毎年十月一日マテニ願出ヘシ

第三條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスル者ハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスル者ハ頭取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ

第四條 酒類ノ火入滓引ハ造石檢査ノ後之ヲ爲スヘシ

第五條 檢査濟ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕漉セントスルトキハ其時々届出檢査ヲ受クヘシ但製成ノ上増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第六條 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スルモノハ其旨届出檢査ヲ受クヘシ

第七條 稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類アル場合ハ其實況ヲ證明シ直ニ管廳ニ届出ツヘシ

第八條 造石稅納期以前免許鑑札ヲ買賣讓與シ又ハ廢業スル者ハ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

附則

第九條 第二條願出ノ期限ハ本年ニ限リ來ル十一月三十日迄トス

第十六節 自家用料酒類製造者心得

明治十九年八月二  
十四日大藏省令 第二十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ届書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出ヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

自家用料酒類製造者心得 輸出酒類戻稅規則 同施行細則 五百十五



科 四百十五

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七節 輸出酒類戻稅規則

明治二十一年七月十五日勅令 第五十四號

朕輸出酒類戻稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

輸出酒類戻稅規則

第一條 內國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サ、ル者ハ其効力ヲ失フ

第二條 造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ

第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

第十八節 輸出酒類戻稅規則施行細則

明治二十一年八月三日大藏省令 第八號

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通相定ム

輸出酒類戻稅規則施行細則

第一條 酒類ヲ外國ニ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査済ノ證明書ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ證明書ニ必ス在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條 外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數下當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ造石稅金ヲ還納スヘシ

第四條 造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

第十九節 酢元ニ供スル酒類製造罰則

明治十六年十二月十八日布告 第四十二號

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サズ犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其己ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

酢元ニ供スル酒類製造罰則

罰 三圓以上  
全 酒類及  
全 酢ヲ沒  
追 徵價



(料) 一圓以上

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十節 醫麴營業稅則

明治十三年九月第四十一號  
月廿七日布告

醫麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

醫麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醫麴釀造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醫麴營業稅 金五十圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ニ届出ヘシ

第五條 (明治十五年第六十二號布告)  
ヲ以テ本條ニ第二項ヲ追加)

販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

醫麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醫麴賣捌所ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醫麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徴スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

第十二條 (本條以下明治十五年第六十二號布告ヲ以テ追加)

醫麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醫麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醫麴ヲ製造スルヲ許サス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル

第十四條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル

第十五條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル

第十六條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル

醫麴營業稅則 沖繩縣酒類出港稅則

(料) 營業稅 二倍

(料) 一圓以上 五十圓以下

(罰) 五十圓以上 五十圓以下



物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ  
第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罰俱發ノ例ヲ用  
ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス  
第十五條 營繕營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係ル此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營  
業者ヲ處罰ス

第十一節 沖繩縣酒類出港稅則

明治二十一年三月  
月二十一日勅令第十二號

朕沖繩縣酒類出港稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣酒類出港稅則

第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金三圓  
ヲ賦課ス  
第二條 出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船政所ヲ設置ス  
第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港稅ヲ船政所ニ納メ船積免狀並領收證  
ヲ受ケ船積スヘシ  
第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船政所ニ届出ヘ  
シ  
那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルルルハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ  
但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セシトシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出  
港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第七條 第四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條 前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモ  
ノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條 此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

第廿二節 沖繩縣酒類出港稅則施行細則

明治二十一年七月  
月七日大藏省令第七號

本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第一條 酒類ヲ他府縣へ輸出スル者ハ少ナシトモ出港二十四時以前ニ左ノ項目ヲ記載  
シタル書面ニ稅金相添ヘ那覇船政所へ申出其酒類ノ檢査ヲ請ヒ船積免狀及稅金領收  
證ヲ受シヘシ

沖繩縣酒類出港稅則施行細則



前  
三  
四  
五

- 一 酒類ノ種目及石數
- 一 出港稅額
- 一 容器ノ種類及箇數
- 一 荷主ノ族籍住所姓名
- 一 船名及船長姓名
- 一 出港地名

第二條 船政所ハ酒類ヲ檢査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ税金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ枳量ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス

第四條 主任官船舶ノ檢査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若シハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條 出港差止中其酒類ヲ出港シ若シハ出港シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三節 米商會所並株式取引所收稅規則

明治十八年十一月廿八日布告 第三十八號

米商會所並株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十一年九月第三十號布告明治十五年十二月第六十五號布告及同年同第六十七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所並株式取引所收稅規則

第一條 (明治二十一年勅令第七十五號ヲ以テ本條中米穀定期賣買千分ノ二ヲ萬分ノ六ト改メ)

會所並取引所ノ税金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十日マテニ地方廳ニ上納スヘシ

米穀定期賣買

賣買各約定代金高 萬分ノ二

賣買各約定代金高 萬分ノ三

賣買各約定代金高 萬分ノ六

公債證書定期賣買

賣買各約定代金高 萬分ノ六

諸株式定期賣買

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻キ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル税金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之レヲ還付セズ

第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第五條 會所並取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高キ詐リ脫稅シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所並取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

米商會所株式取引所收稅規則 同仲買人納稅規則

前  
三  
四  
五



第二十四節 米商會所株式取引所仲買人納稅規則

明治十五年十二月二十五號  
月二十七日布告第六十五號

米商會所並株式取引所仲買人納稅規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納稅規則

第一條 米商會所仲買人定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅スヘシ

第二條 株式取引所株式仲買人公債證書並諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納稅スヘシ

第三條 第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル稅金ヲ免除ス

第四條 株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納稅スヘシ

第五條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之ヲ還付セズ

第六條 稅金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ

第七條 會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル稅金ヲ每一箇月取纏メ翌月十日限り地方應ニ上納スヘシ

第八條 稅金徵收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

脱稅高ノ三倍

第九條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢查セシムヘシ

第十條 稅金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脱稅高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タルノ認許ハ其效ヲ失フモノトス

第十一條 前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ

第十二條 會所及取引所ニ於テ本則納稅ノ取締ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納稅ノ欠額ヲ追徵スヘシ(第四十六號布告本書第七章第十六節ニ出ツ)

第二十五節 證券印稅規則

明治十七年五月十一號  
月一日布告第十一號

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第二百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

別冊 證券印稅規則

第一條 凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證券帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證券帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

證券印稅規則



第一類

左ニ掲ケル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス  
 ヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ税印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一 當座預リ金引出小切手	印稅	五	厘
一 委任狀	同	五	厘
一 金高記載ナキ約定證文	同	一	錢
一 遺物證文	同	一	錢
一 跡式讓證文	同	一	錢
一 讓與證文	同	一	錢
一 期限ヲ定メサル預リ金證文	同	一	錢
一 耕地小作證文	同	一	錢
一 雇人請合狀	同	一	錢
一 金高記載ナキ諸物品預リ證文	同	一	錢
一 金高記載ナキ諸物品借用證文	同	一	錢
一 地所預リ證文	同	一	錢
一 諸物品切手	同	一	錢
一 借地證文	同	一	錢
一 借家證文	同	一	錢

一 賣買仕切書

一 保險證文

一 諸會社株券

一 送金手形

一 金銀通帳

一 諸物品判取帖

一 結社約定書

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金

高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲ケル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一 營業ニ關スル送狀

一 營業ニ關スル請取書

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付一錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲ケル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一 金錢借證文



一 地所 家屋賣買證文		
一金高記載アル諸物品預リ證文	印稅	一 錢
一金高記載アル諸物品借用證文	同	二 錢
一 諸物品賣買證文	同	四 錢
一金錢定期預リ證文	同	六 錢
一金高記載アル諸般ノ契約證書	同	八 錢
金高一圓以上二十圓未滿	同	十一 錢
金高二十圓以上五十圓未滿	同	十四 錢
金高五十圓以上百圓未滿	同	二十 錢
金高百圓以上百五十圓未滿	同	二十六 錢
金高百五十圓以上二百圓未滿	同	三十二 錢
金高二百圓以上三百圓未滿	同	三十八 錢
金高三百圓以上四百圓未滿	同	
金高四百圓以上六百圓未滿	同	
金高六百圓以上八百圓未滿	同	
金高八百圓以上千圓未滿	同	
金高千圓以上千四百圓未滿	同	

金高千四百圓以上千七百圓未滿	同	四十四 錢
金高千七百圓以上二千圓未滿	同	五十 錢
金高二千圓以上二千五百圓未滿	同	六十 錢
金高二千五百圓以上三千圓未滿	同	七十 錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿	同	八十 錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿	同	九十 錢
金高四千圓以上	同	一 圓
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス		
一 金高百圓未滿	印稅	四 錢
一金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ		
一金錢當座預リ證文		
一 質物 <small>預リ書 小札</small>	印稅	一 錢
金高一圓以上二十圓未滿	同	二 錢
金高二十圓以上	同	
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス		

證券印稅規則



金高百圓未滿 印稅 二 錢

一爲替手形 同 四 錢

一荷爲替手形 同 四 錢

一約束手形 同 四 錢

金高五十圓未滿 印稅 一 錢

金高五十圓以上百圓未滿 同 二 錢

金高百圓以上二百圓未滿 同 四 錢

金高二百圓以上五百圓未滿 同 八 錢

金高五百圓以上千圓未滿 同 十五 錢

金高千圓以上二千圓未滿 同 二十五 錢

金高二千圓以上 同 五十 錢

第三條 前條ニ掲ケル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿コソテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セズ但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用

シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲ケル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏准官吏若シハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若シハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ管廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人ニ差出ス請取證書

一罹災救助金献金密附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

(明治二十三年法律第二十號ヲ以テ本條ニ左ノ一項ヲ追加ス)

一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書



第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ハ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ  
第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿チサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ双方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ  
第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

(罰) 脫稅高二十倍

(全) 印稅高十倍

(全) 正犯ノ半額  
(罰) 二圓以上  
(罰) 二圓以上

(罰) 二圓以上  
(罰) 二圓以上

(罰) 五十圓以上  
(罰) 五十圓以下

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒収シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス



第廿六節 賣藥印紙稅規則  
明治十五年十月二十七日布告 第五十一號

賣藥印紙稅則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ズ定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄	印稅壹厘
一同 二錢迄	同 二厘
一同 三錢迄	同 三厘
一同 五錢迄	同 五厘
一同 十錢迄	同 壹錢
以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス	
第二條 印紙種目ハ左ノ如シ	
一厘	淡黑色
二厘	青色
三厘	黃色

(全) 二百圓以上  
 (全) 二百圓以下  
 (全) 一百圓以上  
 (全) 一百圓以下  
 (全) 五十圓以上  
 (全) 五十圓以下

五厘 茶褐色  
 一錢 赭色  
 二錢 綠色  
 三錢 濃青色  
 四錢 橙黃色  
 五錢 紫色  
 十錢 深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ  
 但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ヨシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍

賣藥印紙稅規則 無印紙賣藥所持者罰則



其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍  
ホ其品ヲ沒收ス

(賣藥印紙貼用雜形等之)

第二十七節 無印紙賣藥所持者罰則

明治十九年十月二  
十一日大藏省令 第三十一號

賣藥自用者ハ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金  
一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八節 民事訴訟用印紙規則

明治十七年二月  
二十三日布告 第五號

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年<sup>十二</sup> 第百九十六號布告訴訟用郵紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

冊紙

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應<sup>レ</sup>左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ  
時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

金額 五圓マテ

二十錢

同 十圓マテ

三十錢

同 二十圓マテ

六十錢

同 五十圓マテ

一圓五十錢

同 七十五圓マテ

二圓二十錢

同 百圓マテ

三圓

同 二百五十圓マテ

六圓五十錢

同 五百圓マテ

十圓

同 七百五十圓マテ

十三圓

同 千圓マテ

十五圓

同 二千五百圓マテ

二十圓

同 五千圓マテ

二十五圓

同 五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ二圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ  
於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼  
用ヲ免スルコトアル可シ

民事訴訟用印紙規則

五百三十七



第四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判官渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本一枚五錢其他ノ謄本

ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本一枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

但裁判官渡書ノ謄本ハ一枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ一枚二十行一行十八

字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依テ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコ

トヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ

處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰

金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例

ヲ用ヒテ

第二十九節 登記印紙規則

明治二十一年法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ

朕登記印紙規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記印紙規則

第一條 明治十九年法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ

納付スヘシ

第二條 登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ請求人記名

ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第三條 登記印紙ノ種類定價及其賣下ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 登記印紙ハ官廳ノ許可シタル賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌シコトヲ得ス若其賣

捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌キタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印

登記印紙規則

二十圓以上  
二百圓以下  
(全) 十圓以上  
五十圓以下

二十圓以上  
五十圓以下







第十條

(全上法律ヲ以テ本條中取) 稅委員ヲ納稅委員ト改正

納稅委員ハ水產物營業人組合會ヲ開キ組合ノ稅額ニ對シ各自ノ負擔スヘキ稅金ヲ評決セシメ郡區長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但營業人ノ組合會期其他本條ニ關スル手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十一條

(本條全上法律ヲ以テ削除)

第十二條

(本條全上法律ヲ以テ削除)

第十三條

第八條ノ組合ニ加入セスシテ水產物ノ營業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ其水產物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス

第十四條

此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條

水產稅ノ納期及此稅則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十六條

從前現品定稅ヲ徵收シ又ハ現品稅ヲ徵收セス若クハ無稅ニシテ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ產出高詳カナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現產出高ニ就キ第六條ノ稅品拂下平均代價ヲ以テ價額ヲ定メ其ノ百分ノ五ヲ稅金トシテ徵收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シタル上ハ大藏大臣ニ於テ本稅則ニ據リ改正スヘシ

第十七條

前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ稅金ニ係ル事項ヲ除クノ外總テ此稅則ニ從フヘシ

第十八條

第十六條ノ營業人ニシテ其水產物ノ產出高ヲ偽リ連稅シタル者ハ其連稅高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ其水產物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス但自首スル者ハ其稅金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第十九條

明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及從前北海道物產稅ニ關スル命令規則ハ此稅則施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十一節

北海道水產稅則施行細則

明治二十年四月十九日大藏省令第六號

今般勅令第六號ヲ以テ北海道水產稅則公布相成候ニ付施行細則左ノ通之ヲ定ム

北海道水產稅則施行細則

第一條

(明治二十一年大藏省令第四號ヲ以テ本條中ヲ如左改正)

水產稅ノ納期及ヒ其納額割合ハ左ノ如シ但組合ノ評決ヲ以テ每納期ノ納額割合ヲ繰上ケ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上クヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

渡島國

後志國

石狩國

天鹽國

北見國

第一期

六月一日ヨリ六月三十日限リ

百分ノ四十

北海道水產稅則施行細則

通稅高ノ三倍ノ罰金  
水產物ノ沒收  
道代徵金

二十圓以上  
二十圓以下  
水產物ノ沒收  
道代徵金



第二期	八月三十一日限リ	百分ノ四十
第三期	十月三十一日限リ	百分ノ七
第四期	十二月三十一日限リ	百分ノ七
第五期	翌年三月三十一日限リ	百分ノ六
膽振國 日高國 十勝國 釧路國 根室國 千島國 石狩國 石川郡		
第一期	六月一日限リ	百分ノ五
第二期	八月三十一日限リ	百分ノ二十
第三期	十月三十一日限リ	百分ノ二十五
第四期	十二月三十一日限リ	百分ノ二十五
第五期	翌年三月三十一日限リ	百分ノ二十五
第二條 稅則第十六條ニ該當スル水産稅ノ納期ハ左ノ如シ		
第一期	三月一日ヨリ 五月三十一日ニ至ル	産出シタル分 六月十六日限リ
第二期	六月一日ヨリ 七月三十一日ニ至ル	産出シタル分 八月十六日限リ
第三期	八月一日ヨリ 九月三十日ニ至ル	産出シタル分 十月十六日限リ
第四期	十月一日ヨリ 十一月三十日ニ至ル	産出シタル分 十二月十六日限リ
第五期	十二月一日ヨリ 翌年二月末日ニ至ル	産出シタル分 翌年三月十六日限リ
第三條 收稅委員ハ稅則第十六條ニ該當スルモノ、外毎年水産物毎種類産出ノ終リタ		

ルトキ其組合ニ於テ産出ノ水産物總高並價額ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ但其産出ノ季節ヲ限ラサルモノハ毎年四月九月ノ兩度ニ其前月マテノ總高ヲ取調フルモノトス

第四條 稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ハ第二條期限内ニ産出シタル水産物ヲ一種類毎ニ取調毎期ノ翌月三日以内ニ其組合收稅委員ニ届出ツヘシ

第五條 收稅委員ハ第四條ノ届書ヲ調査シテ取調書ヲ製シ與書捺印ノ上每期ノ翌月七日以内ニ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ差出スヘシ

第六條 郡區長ハ第五條ノ取調書ニ據リ稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ノ納稅額ヲ算出スヘシ但三ヶ年平均相場分明ナラサル地ハ其近接地ノ三ヶ年平均相場ニ據ルヘシ若シ其平均相場ヲ得サルトキハ本地ト近接地ノ其年平均相場ニ據ルモノトス

第七條 水産稅ノ徵收ハ北海道廳長官ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ各組合收稅委員ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第八條 各組合收稅委員ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ其組合中一人別納額元帳ニ據リ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ稅金ヲ取纏ムヘシ

第九條 各收稅委員ニ於テ取纏メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ國庫金出納所ニ納付シ若シ戶長ニ委託シテ之ヲ該所ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設クルトキハ納期中ニ留限リ一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其收稅事務取扱所ニ留



ムルコトヲ得

第十條 郡區長ハ第七條ニ據リ各組合收稅委員ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルトキハ總テ歲入取扱順序第二章ニ準據シ取扱フヘシ

第十一條 各組合收稅委員ハ徵稅傳令書ヲ製シ各納稅者ニ交付シ税金取纏メノ上之ヲ納付シ又既納税金拂戻ヲ要スルトキハ總テ歲入取扱順序第三章ニ準據シ取扱フヘシ

第十二條 各組合收稅委員ニ於テ各納稅者ヨリ取纏メタル税金ヲ便宜ニ依リ戶長ニ委託シテ納付セントスルトキハ徵稅令書ヲ受領セシ際其旨郡區長ニ届出ツヘシ

第十三條 郡區長ハ第十二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ戶長ニ命令シテ其税金ヲ預カラシメ國庫金出納所ニ納付セシムヘシ

第十四條 戶長ハ郡區長ノ命令ニ依リ各組合收稅委員ヨリ税金納付ノ委託ヲ受ケタルトキハ歲入取扱順序第六十六條第六十七條第六十八條ニ準據シ取扱フヘシ

第十五條 水産稅徵收ニ關シ第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ニ掲ケル外ハ總テ歲入歳出納規則及歲入取扱順序ニ據ルヘシ

第十六條 第三條水産物ノ總高取調ニ關シ水産物營業人ニ於テ其產出高ヲ偽リ又ハ收稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス但其產出高ヲ偽リタル者自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

第十七條 水産物營業人ニ於テ第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ一圓九十五錢以下ノ科

(罰) 二百五

(罰) 十兩

料ニ處ス

第三十二節 國稅滯納處分法

明治二十二年十一月二十二日法律第三十二號

朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅滯納處分法

第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ

督促令狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條 滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滯納者財產ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條 滯納處分費滯納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財產ニ付テハ此限ニ在ラズ

國稅滯納處分法



第七條 酒類醬油造石税ニ付滞納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滞納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條 滞納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ

第一 督促令狀手数料

第二 差押調書及賣却調書調製費

第三 滞納者又ハ其債主若シハ負債者ニ對スル通信費

第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料

第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費

第六 公告費

第七 訴訟ニ要スル諸費

第九條 滞納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解シヘシ

第三者ヨリ滞納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條 滞納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セズ

第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滞納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係

ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章 差押

第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラヌ之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券

第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品

第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生産物

第四 債主權

第五 不動産

第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ質入シタル動産ヲ除ク

第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ボスモノトス

第十五條 滞納處分着手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滞納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル



場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ム  
ルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有ノ家屋倉庫其他滞納者所用  
ノ場所ニ現在スルモノハ滞納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサ  
ルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日前  
マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 滞納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具

第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三 實印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地

第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類

第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣

第七 勳章其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書、器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類

第十 滞納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇  
年前ニ記名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券  
但所得税ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十九條 左ニ掲グル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滞  
納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルコト  
ヲ得

滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所  
ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得

收入官吏滞納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間  
ニ限ルヘシ

第二十一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滞納者若クハ其同  
居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居家族ヲシテ  
立會ハシムヘシ

滞納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ



警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 収入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戸倉庫房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條 収入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滞納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ収入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其原本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 収入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ収入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滞納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ収入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ収入官吏ハ差押物件ノ處分費、税金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ収入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課税地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滞納者ノ請求アルカ又ハ収入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ



第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス  
前項但書ノ物件及豫定總價格一圓未滿ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハズ其賣却物件ヲ買受ルコト得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラス之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收獲前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ  
第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差

押フルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セザルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此

場合ニ於テ尙ホ買受人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セザルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費稅金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費稅金ニ充テ仍ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滞納者ニ交付スヘシ質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主

ニモ其謄本ヲ交付スヘシ  
買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札連書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ



第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ  
前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以内ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若シハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若シハ區役所若シハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス  
前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章 罰則

國稅滯納處分法



罰 一月以上

重 一月以上

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滯納處分ニ對シテ財產ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若シハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ之ヲ施行セズ

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ牴觸スル條項ハ總テ廢止ス  
(明治十年第七十九號布告ハ租稅未納者處分規則ニ係ル)

第三十三節 國稅滯納處分法施行細則  
明治二十三年一月八日大藏省令第一號

國稅滯納處分法施行細則左ノ通定ム

國稅滯納處分法施行細則

第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號樣式第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲グル衣服、寢具、家具、廚具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財產差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定艀場及所在ノ場所
- 五 登記簿ニ登記アル質入書入ノ金額、利子及其返濟期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ質入書入ノ登記アラサルコト
- 六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名其契約ノ要項返戻期限アレハ其期限及貸金
- 七 差押ノ事由及手續

國稅滯納處分法施行細則



第四條 債主權差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

- 一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額
- 二 差押ノ事由
- 三 滞納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無効タルヘキ旨
- 四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認メサル旨ヲ申出ツヘキ旨

第五條 財產賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滞納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 五 競賣若シハ入札ノ場所、日限
- 六 開札ノ場所、日時
- 七 保證金ヲ徵スルトキハ其金額
- 八 代金納付ノ期限
- 九 條件附ノ不動産ナレハ其條件
- 十 其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ

入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ

第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セザルトキハ其物件ヲ交付セズ更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セズ其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ

第八條 財產賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 動産ハ其名稱、種類、數量
- 二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租
- 三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 四 公告及賣却ヲ爲シタル方法
- 五 競賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時
- 六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名
- 七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由
- 八 保證金ヲ徵シタルコト及其金額
- 九 落札代價及落札人ノ住所氏名
- 十 代金納付ノ日限



第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ

第十條 滯納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ

第十一條 處分法第十一條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ内處分費ヲ扣除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滯納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルトキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滯納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ

- 一 物件賣却代金
- 二 保證金ヲ還付セザルトキハ其金額
- 三 處分費各費目ノ金額及税金
- 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名
- 五 滯納者ニ還付スヘキ金額

第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收吏官吏ニ通知スヘシ

第十五條 督促令狀ヲ受タル後ヲ滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及税金ヲ完納スルトキハ納滯處分費ハ第四號様式税金ハ第五號様式ノ納付書ニ督促令狀ヲ添付シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第一號様式

用紙寸法適宜

(印章ハ孰モ朱)

督	等 何 號	經常	租 稅	(滯納者住所)	氏名
	明治何年度	何	(項)	何	(目)
督	一 金 何 程				明治何年
促	一 金 三 錢				第何期分
收入官吏	右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ當出張所へ上納スヘシ若シ其期限ヲ過クルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ				
令	滯納 稅 金 督促令狀手数料				



狀

明治何年何月何日

何縣收稅部何出張所收入官吏  
氏名印

第二號樣式

用紙寸法適宜

差押命令書

府縣  
割印

滯納者住所  
氏名

右何稅何年何月何日限納期ノ分  
金何程滯納ニ付國稅滯納處分法  
ニ據リ本人所有ノ財産ヲ差押  
ヘキ也

明治何年何月何日

府縣  
之印

何縣知事氏名

差押執行シ  
タル月日時  
賣却執行シ  
タル月日時  
執行ノ  
手續

右之通取扱候也

明治何年何月何日

何縣收稅部何出張所收入官吏

氏名印

第三號樣式

用紙寸法適宜

送達書

一(送達スヘキ書名) 一册

一(同) 一通

右使丁ヲ以テ(何縣下何郡何村町  
何番地何某ヘ)送達セシムル者  
也

明治何年何月何日

收稅部出  
張所ノ印

何縣收稅部何出張所

收入官吏氏名印

割印

送達書

一(送達スヘキ書名) 一册

一(同) 一通

右使丁ヲ以テ(何縣下何郡何村町  
何番地何某ヘ)送達セシムル者  
也

受取人ノ署  
名捺印若シ  
能ハサルト  
キハ其事由  
送達シタル  
月日時  
送達シタル

受取人ノ署  
名捺印若シ  
能ハサルト  
キハ其事由  
送達シタル  
月日時  
送達シタル  
場所  
同居人若クハ  
市町村員ヘ書  
類ヲ渡シタル  
トキハ其事由  
右致送達候也

使丁氏名印



明治何年何月何日

收税部出  
張所ノ印

何府何收税部出張所

收入官吏氏名印

右致送達候也

使丁氏名印

場所  
同居人若クハ  
市町村長ヘ書  
類ヲ渡シタル  
トキハ其事由

第四號様式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノ二枚 縦四寸五分ノモノ一枚 横三寸三分ノモノ一枚 横二寸ノモノ一枚 接續

第何號一經常一雜收入 入 滯納處分費 住所氏名

一金何程

右納付候也

明治何年何月何日

住所氏名印

金庫  
割印

第何號一經常一雜收入 入 滯納處分費 住所氏名

收入官  
吏檢印

一金何程

右領収候也

明治何年何月何日

何地金庫印

金庫  
割印

第何號一經常一雜收入 入 滯納處分費 住所氏名

一金何程

明治何年何月何日何地金庫へ納付

收入官  
吏檢印

第五號様式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノ二枚 縦四寸五分ノモノ一枚 横三寸三分ノモノ一枚 横二寸ノモノ一枚 接續

國稅滯納處分法施行細則







付 金何程  
 金何程  
 右納付候也  
 何々々  
 書 明治何年何月何日  
 住所氏名印

(本章第二十五節證券印稅規則 五百二 參照)

(舊證券印稅規則 明治七年七月廿九日第八十二號布告)

明治六年(二月)第五十六號以下追々及布告候證券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但帳簿罰則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ施行候儀ト可相心得事

別冊

證券印稅規則

第一則 綱領

第一條 凡ソ人民財產ノ受授並ニ交際上相用候證書帳簿類ハ都テ此規則ノ通證券

○印紙ヲ相用フヘキ事

第二條 總テ規則ノ通證券○印紙ヲ用ヒサル者ハ後日如何躰ノ故障差起出訴ニ及ヒ

候共其書類ハ一切取揚テ裁判不相成候事

第三條 證券○印紙ハ買求差支無之機各府縣下適宜ノ場所ニ賣捌所相設置候條下條

ニ掲載セル定價ヲ以テ買取ヘキ事

第四條 賣捌所ハ證券印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ

其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

淡黑色印紙	定價	一	錢
薄青色全	全	五	錢
青色全	全	十	錢
黃色全	全	二十五	錢
橙黃色全	全	五十	錢
紅色全	全	一	圓
深紫色全	全	五	圓
深紅色全	全	二十	圓

第六條 證券界紙ノ定價左ノ通候事

大判 界紙	定價	七	厘
中判 全	全	五	厘
小判 全	全	三	厘

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜ナルヘキ事

舊證券印稅規則



第二則 諸證書

第一條 諸證書ヲ分テ三類トス

第一類 諸證書

一 賣品並職業ニ管スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高十圓以上總テ一錢ノ印税十圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 預リ金○證文  
○手形

一 耕地小作證文

一 遺金證文

右ノ證書類ハ金高十圓以上ハ總テ一錢ノ印税十圓未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

一 質物○預リ書  
○小札

右ノ證書ハ金高十圓以上ハ一錢ノ印税十圓未滿ハ印紙界紙ヲ用ルニ及ハス

一 諸會社株手形

一 荷物送り狀

一 荷物預リ證書

一 ○地所  
○運家讓與證書

一 物品讓與證書

一 公債證書類讓與證書

一 跡式讓狀

右ノ證書類ハ金高ニ拘ハラヌ總テ一錢ノ印税

一 預リ米○証文  
○手形

一 預リ雜穀○証文  
○手形

右ノ證書ハ(米高五石雜穀高十石)以上ハ總テ一錢ノ印税(米高五石雜穀高十石)未滿ハ界紙ヲ用ユヘシ

○第二類 諸證書

一 借用金證文

一 預リ金○証文  
○手形但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之ヲ

一 地所並建家賣渡證文

一 地所並建家○買入  
○書入證文

一 公債證書類賣買證文

一 諸品○買入  
○書入證文

一 諸請負證文

一 金錢約定證文

一 金錢約定爲取換證文

一 米穀並諸品賣買約定證文

舊證券印稅規則



- 一 米借用證文
  - 一 雜穀借用證文
  - 一 賣買用諸品(代價十圓以上)借用證文
  - 一 借地證文
  - 一 借家證文
  - 一 金十圓以上記載雇人請狀
  - 一 諸賣買證據金預リ手形
  - 一 諸數金證文
  - 一 預リ米〇〇証文但使用ヲ爲サ、ル明文無之分
  - 一 預リ雜穀〇〇証文但使用ヲ爲サ、ル明文無之分
- 右ノ證書類ハ

金高十圓未満ハ  
書面 米高五石未満ハ  
界紙ヲ用フヘシ

雜穀高十石未満ハ  
金高十圓以上二十圓未満ハ  
同斷 米高五石以上十石未満ハ  
印稅 一 錢

雜穀高十石以上二十石未満ハ

金高二十圓以上三十圓未満ハ  
同斷 米高十石以上十五石未満ハ  
全 二 錢

雜穀高二十石以上三十石未満ハ  
金高三十圓以上四十圓未満ハ  
同斷 米高十五石以上二十石未満ハ  
全 三 錢

雜穀高三十石以上四十石未満ハ

右以上總許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅増加イタスヘシ

(明治七年第百三十六號布告ヲ以テ本條ニ左ノ一項ヲ追加)

一 諸品賣買仕切書

(明治十二年第三十一號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加)

但シ買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問屋仲買又ハ其他  
ニ於テ仕切其價格等ヲ荷主ヘ證明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他  
ニ物品ヲ販賣又ハ輸送スルニ方テ其物品賣却ノ價格ヲ荷受主ニ向テ證明報告  
スル書類ヲ云フ

右ノ仕切書ハ  
書面金高十圓未満ハ  
界紙ニモ及ハス  
同斷金高十圓以上二十圓未満ハ  
印稅 一 錢

舊證券印稅規則



同斷金高二十圓以上三十圓未滿ハ 全 二 錢  
 同斷金高三十圓以上四十圓未滿ハ 全 三 錢  
 同斷金高四十圓以上五十圓未滿ハ 全 四 錢  
 右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第三類 諸證書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ

升目一升未滿ハ

同一升以上一斗未滿ハ

同一斗以上二斗未滿ハ

同一斗以上三斗未滿ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イマス可シ

一 食類切手

右ノ切手ハ

代金高二十五錢未滿ハ

同二十五錢以上二圓五十錢未滿ハ

同二圓五十錢以上五圓未滿ハ

界紙ニ及ハス 印稅 一 錢  
 全 二 錢

全 三 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一米油醬油其外諸品賣買切手

右ノ切手ハ

代金高二拾五錢未滿ハ

同二十五錢以上五圓未滿ハ

同五圓以上十圓未滿ハ

同十圓以上二十圓未滿ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 荷物請取書

右ノ請取證ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附添之分ハ界紙ヲ用フル歟又

ハ印紙貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

(明治七年第百三十六號布告ヲ以テ本條ニ左ノ一項ヲ追加)

一 爲換手形

一 荷爲換手形

右ノ手形ハ

書面金高五十圓未滿ハ

界紙ニモ及ハス



同斷金高五十圓以上百圓未滿ハ

印稅 一 錢

同斷金高百圓以上百五十圓未滿ハ

全 二 錢

同斷金高百五十圓以上二百圓未滿ハ

全 三 錢

同斷金高二百圓以上二百五十圓未滿ハ

全 四 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルニ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一銀行當座預リ金小切手

右ノ小切手ハ總テ一錢ノ印稅ヲ徵收シ大藏省ニ於テ稅印ヲ押捺スルモノトス

一金高記載無之〇〇約定證書類

右ノ證書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

第二條 證書ハ總テ證書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙ノ全面滅却セ

サル様第一號圖ノ通調印致スヘキ事

第三條 院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ調印セル請取書證書類ハ印紙界

紙ヲ用フルニ及ハサル事

第四條 租稅並ニ賦金及ヒ區入費取立ノ節區戶長ヨリ相渡候請取書ハ界紙ヲモ用フ

ルニ及ハサル事 第五條 官祿家祿賞典救助受取書又ハ裁判受書及ヒ訴訟濟口證文等ハ都テ印紙界紙

ヲ用フルニ及ハサル事

第六條 (明治七年第八十九號布 告ヲ以テ本條ヲ追加)

一院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲替方等へ貢金其他官金相預ケ候節預リ金證文并

ニ預リ金通帳ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

第一類 諸帳簿

一金錢判取帳

一質物通帳

一金錢當座預リ通帳

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ 印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上二百圓未滿ハ 印稅 一 錢

同斷金高二百圓以上三百圓未滿ハ 全 二 錢

同斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ 全 三 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第二類 諸帳簿



一 貨物臺帳

一 金錢一時○貸借通帳

一 諸品損料帳

一 商賣品當座○貸借通帳

一 金錢預り通帳但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之分

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

同斷金高百圓以上二百圓未満ハ

同斷金高二百圓以上三百圓未満ハ

同斷金高三百圓以上四百圓未満ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第三類 諸帳簿

一 荷物判取帳

一 諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ラス一ケ年ニ付印稅二十錢

第二條 ○第一類帳簿ハ印紙貼用ノ儀ハ一ケ年以上附込ヘキ見積金高ヲ以第三號書式

ノ通帳簿ノ初丁ヘ自身ニ相記シ其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以調印

致スヘキ事

但帳簿初丁ヘ記シタル附込見積金高相滿候迄ハ何ケ年相用候トモ苦シカラサル

事

第三條 第三類ノ帳簿ヘ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見積リ第四號書式之通

帳簿ノ初丁ヘ自身ニ相記シ其年限ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以調印致ス

ヘキ事

但帳簿ノ初丁ヘ記シタル年限相滿候迄ハ何箇數附込候トモ苦シカラサル事

第四條 一旦印紙貼用○第一類帳簿附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿年限相滿

餘白ノ紙數有リテ再用セント欲スル者ハ尙其帳簿ニ應シ○第三號書式ノ通改テ書記

シ印紙貼用致スヘキ事

第五條 第二類ノ證書ヲ若シ便利ノ爲帳簿ニ相綴リ書載候儀不苦候得共其帳簿ハ其

附込ノ廉毎ニ第二則第一條ノ通印紙貼用致スヘキ事

第六條 印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ可有之尤其節ハ巡廻

日限前以可相違候條印紙貼用ノ帳簿ハ無遺漏調査ヲ受クヘキ事

第七條 ○第一類附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限相滿候節ハ其帳末ニ第

五號書式ノ通與書ノ上調印致シ置前條官員巡廻ノ節差出檢印ヲ受クヘキ事

第四則 賞罰例

舊證券印稅規則